

〈要約〉

地方都市における地域再生の歩み
—北九州市（門司港レトロ事業）を事例として—
History of regional revitalization in regional cities
— A Case Study of Kitakyushu City (Mojiko retro business) —

岩 武 光 宏
Mitsuhiro Iwatake

現在の日本における地域社会の状況は、長引いた経済不況の影響や産業構造の変化によって、いまだに地域経済は衰退し、疲弊している。この状況は、①国・地方の財政赤字の累積とこれによる長期債務残高の急増、②従来の国の護送船団方式による経済運営、③少子高齢化社会の到来という国全体の状況がさらに拍車をかけてきたのである。くわえて、東日本大震災をはじめとする様々な自然災害によって、ますます地域社会の運営は難しい局面を迎えている。したがって、地域社会の立場は厳しく、国からの財政支援をあてにせず、地方分権のさらなる推進による自律的な地域発展を模索しなければならない。

本稿では、地域経済の活性化政策の事例として北九州市の門司港レトロ事業（以下、レトロ事業という）を取り上げたい。周知のように、北九州市は、1963年に5市が対等合併して、100万都市として誕生した。ところが、その後の産業構造の変革にともなって、同市は典型的な衰退都市の様相を呈することとなった。このため、同市は、衰退しつつある地域経済の再生のために、数多くの事業（1988年に“北九州ルネッサンス構想”を策定）を展開し、そのなかの1つとしてレトロ事業を開始した。すでに、第1期事業（1988年～1994年）、第2期事業（1997年～2007年）が完了しており、現在は、“門司港レトロ観光まちづくりプラン”が推進されている。いうまでもなく、同事業の目的は観光振興を軸にした地域再生・地域活性化である。同事業の成果としては、観光客数の増加や新規雇用者の創出などがあげられる。他方、直面する課題としては、観光施設の利用促進および維持・更新などが指摘される。また、事業の特徴としては、その財源調達をあげることができよう。以上のように同事業の成果と課題に関する分析を試み、その実施過程を通じて国と地方の関係を考察し、地域再生に向けての若干の提言を紡ぎ出したい。